

新潟・中倉遺跡

なかぐら

1 所在地 新潟県北蒲原郡中条町中倉

2 調査期間 第六次調査 一九九九年(平11) 四月～七月

3 発掘機関 中条町教育委員会

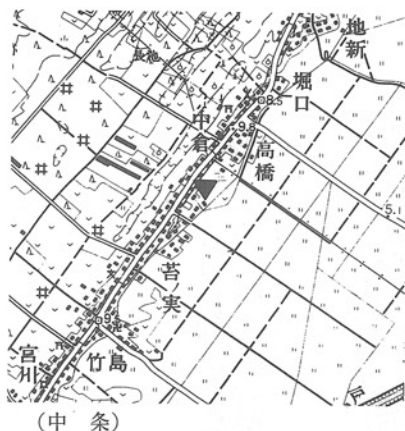
4 調査担当者 吉村光彦

5 遺跡の種類 集落跡・自然流路

6 遺跡の年代 八世紀～九世紀、一四世紀～一五世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、砂丘列の内側の潟に面して立地している。今回は、集落のほぼ南東限と考えられる部分とそれに面した潟端を調査した。



古代の遺構は、第三次調査(本誌第二〇号・中条町教育委員会『中倉遺跡三次』(一九九九年)を参照)と同様、川跡に遺物を投棄した状況が検出され、「王」など四点以上の墨書須恵器や石帯二点(櫛上帯)が出土している。ただし今回報告する

木簡は、その上層より出土しており、中世に属するものと思われる。中世の遺物としては、一四～一五世紀の青磁、瀬戸・美濃、珠洲、土器、瓦質鉢、砥石、漆器、銭などが出土している。

木簡は、調査区の端近くの、川跡中からの出土である。

8 木簡の釈文・内容



完形の木簡で、下方を尖らせているが、先端は1cmほどの幅を残して切り落としている。そして、真中辺りで二つ折りにされている。両面ともびっしりと墨痕が認められ、なんらかの呪符と考えられる。表面は、縦方向に部分的に墨書が削り取られていることから、用が済んだ後に表面を削り、折ってから廃棄したものと思われる。

なお、木簡の性格については、新潟大学の小林昌二氏・相沢央氏にご教示を賜った。

(水澤幸二)

